

いばらきネットモニター ケアラー・ヤングケアラーに関するアンケート調査結果

1 調査目的

「ケアラー」及び「ヤングケアラー」の認知度等を調査し、今後の施策の参考にするために実施するものです。

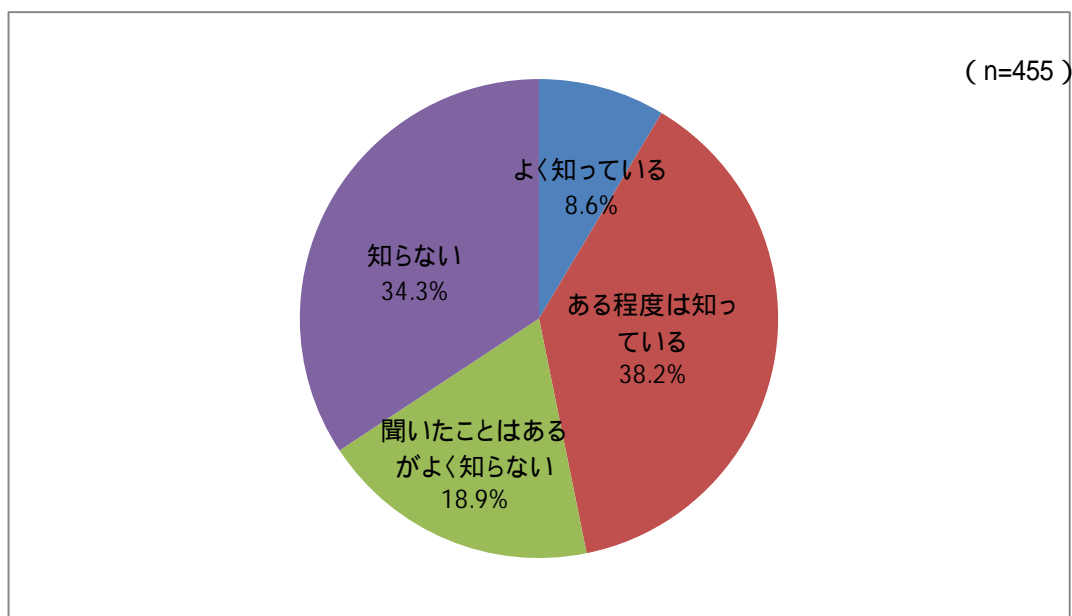
2 結果の概要

- ・「ケアラー」の認知度について、「よく知っている」「ある程度は知っている」の合計が46.8%、「ヤングケアラー」の認知度について、「よく知っている」「ある程度は知っている」の合計が48.7%であった。
- ・「ケアラー」「ヤングケアラー」の状況や支援策等について、知る機会があった場合、参加してみようと思うかについて、「思う」「やや思う」の合計が67.3%であった。
- ・あなたの周りに「ケアラー」又は「ヤングケアラー」と思われる人はいますか(いましたか)について、「いる」が21.5%であった。

茨城県内在住のネットモニターからの回答をもとに算出しております。(なお、県外在住の方からの回答も別途集計し、施策の参考にさせていただいております。)

【問1】(「ケアラー」の認知度)

あなたは、「ケアラー」という言葉を知っていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。



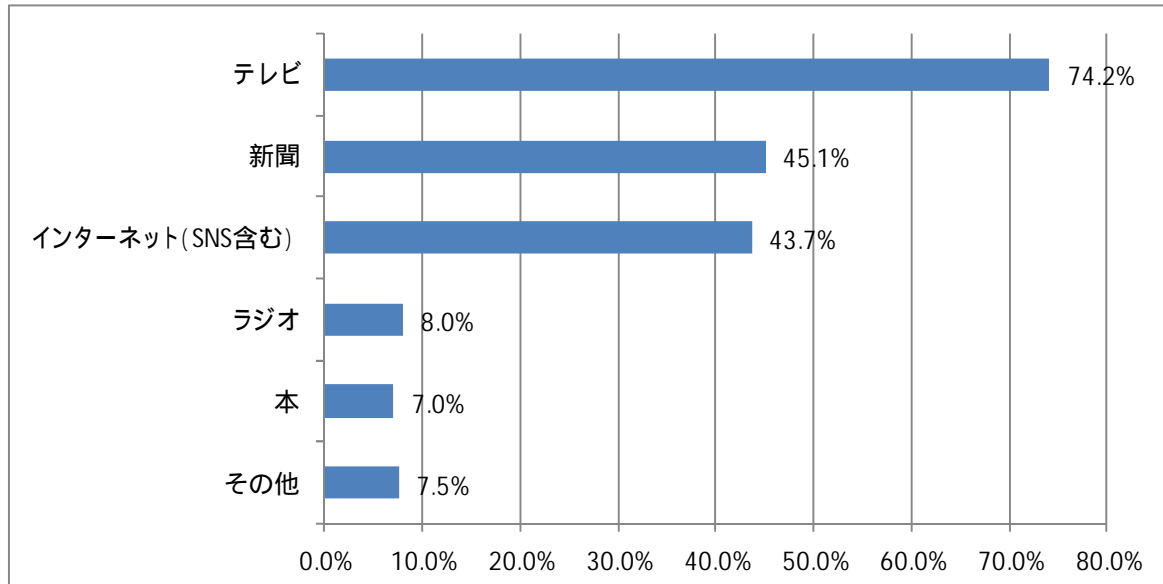
「よく知っている」及び「ある程度は知っている」の合計が46.8%となった。

【問2】(問1で「よく知っている」又は「ある程度は知っている」と回答した方にお伺いします)

(「ケアラー」という言葉を知ったきっかけ)

あなたは「ケアラー」という言葉をどこで知りましたか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

複数回答 (n=213)

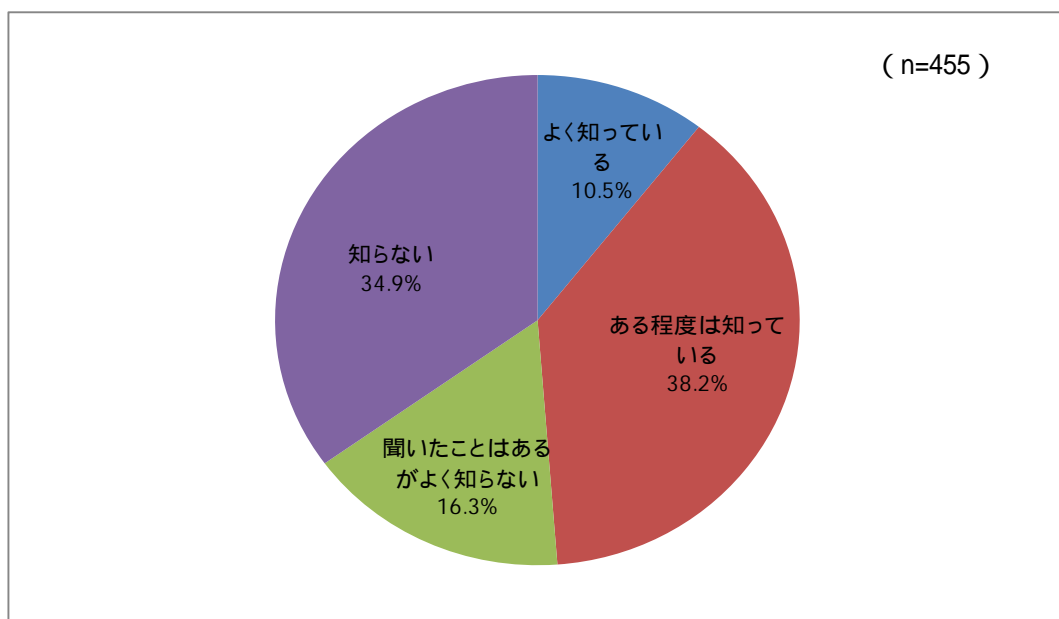


「その他」(7.5%)として、次の様な意見が挙げられた。

- ・大学の授業
- ・介護福祉士実務者研修
- ・講習会
- ・身近な状況から
- ・専門職のため
- ・患者と家族の友の会 など

【問3】(「ヤングケアラー」の認知度)

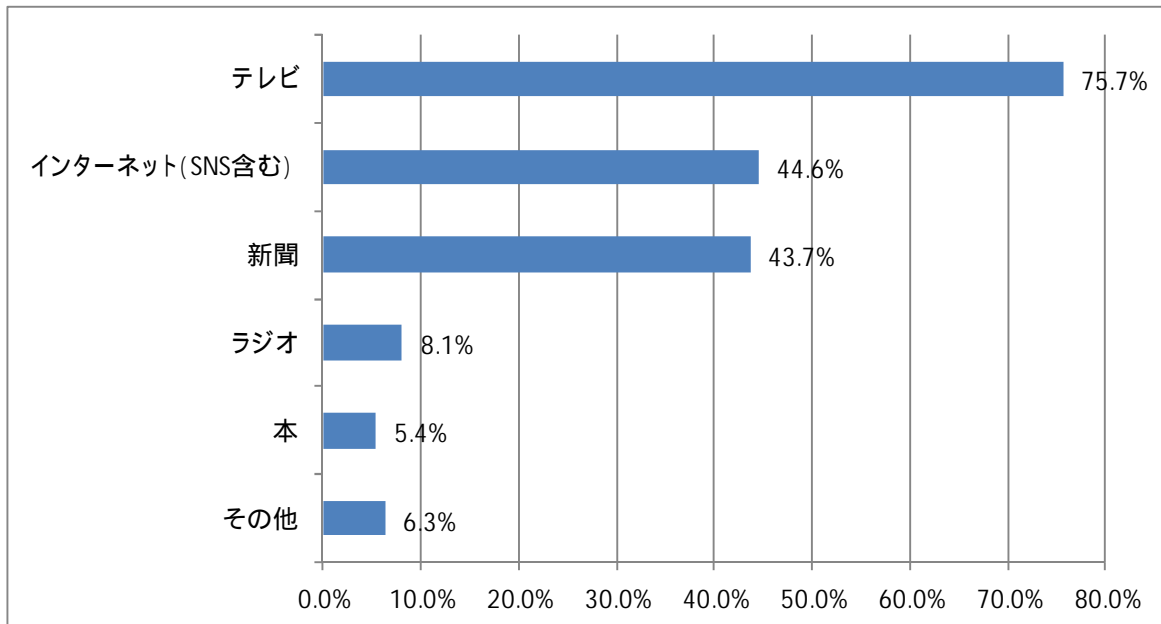
あなたは、「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。



「よく知っている」及び「ある程度は知っている」の合計が48.7%となった。

【問4】(問3で「よく知っている」又は「ある程度は知っている」と回答した方にお伺いします)
 (「ヤングケアラー」という言葉を知ったきっかけ)
 あなたは「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

複数回答 (n=222)

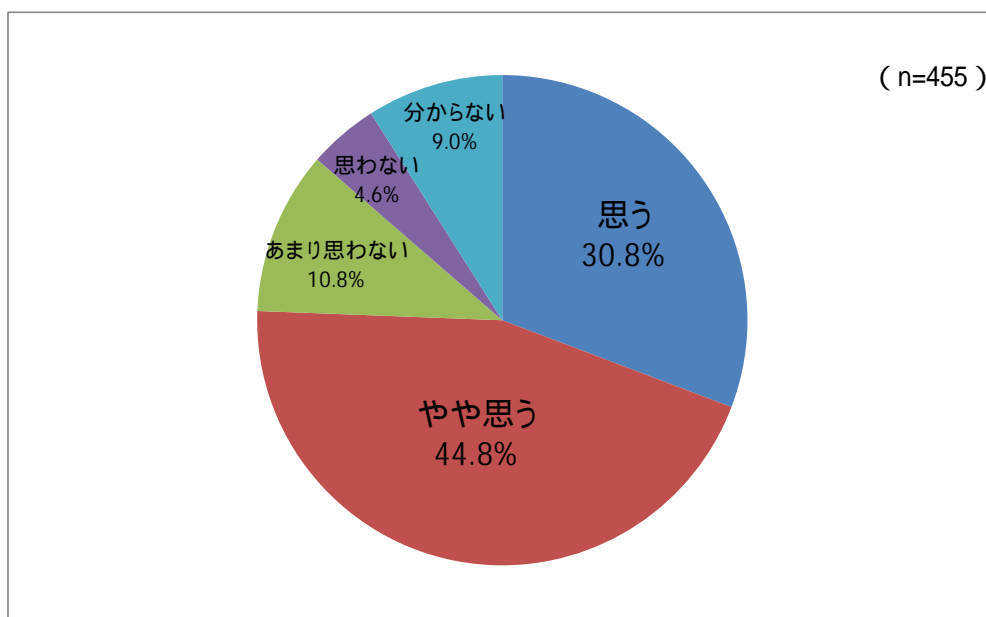


「その他」(6.3%)として、次の様な意見が挙げられた。

- ・大学の授業
- ・支援している NPO などの勉強会に参加
- ・講習会
- ・自分自身がそうだった
- ・専門職のため
- ・患者と家族の友の会 など

【問5】(支援の意識)

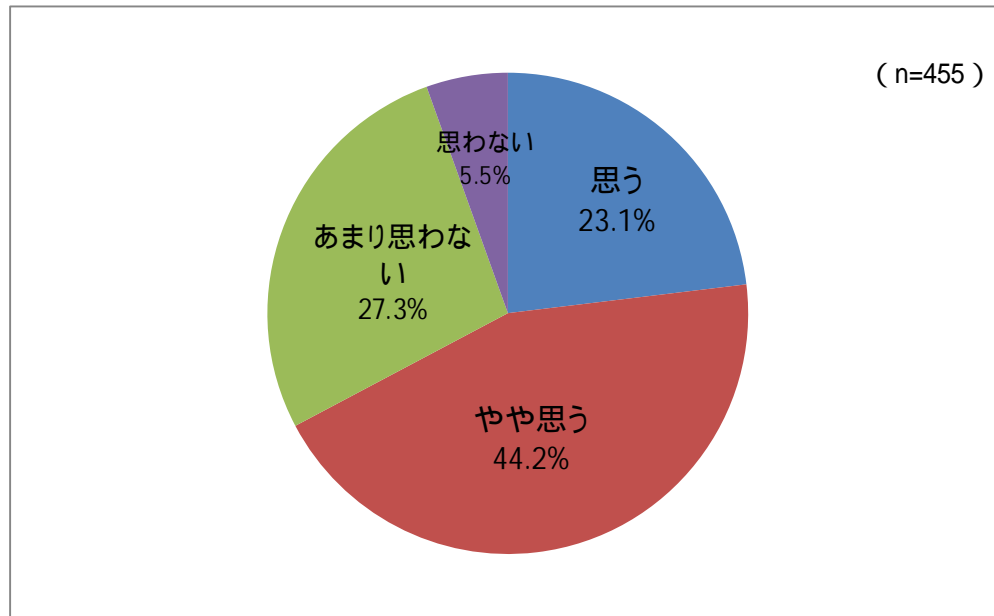
自分の周りに、家族等のケアで困っている人がいた場合、あなたは、できることがあれば手助けしたいと思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。



「思う」及び「やや思う」の合計が75.6%となった。

【問6】(修学機会への参加意欲)

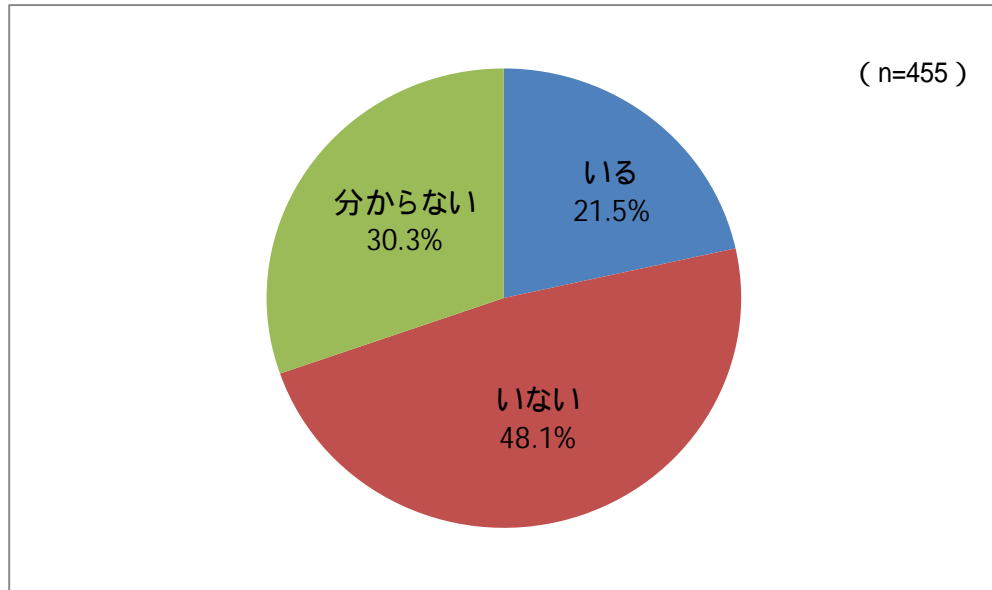
今後、「ケアラー」・「ヤングケアラー」の状況や支援の必要性、ケアラーを孤立させないなどの支援策について知る機会があった場合、あなたは、参加してみようと思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。



「思う」及び「やや思う」の合計が67.3%となった。

【問7】(自分の周りの「ケアラー」・「ヤングケアラー」)

あなたの周りには、「ケアラー」又は「ヤングケアラー」と思われる人はいます(いました)か。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

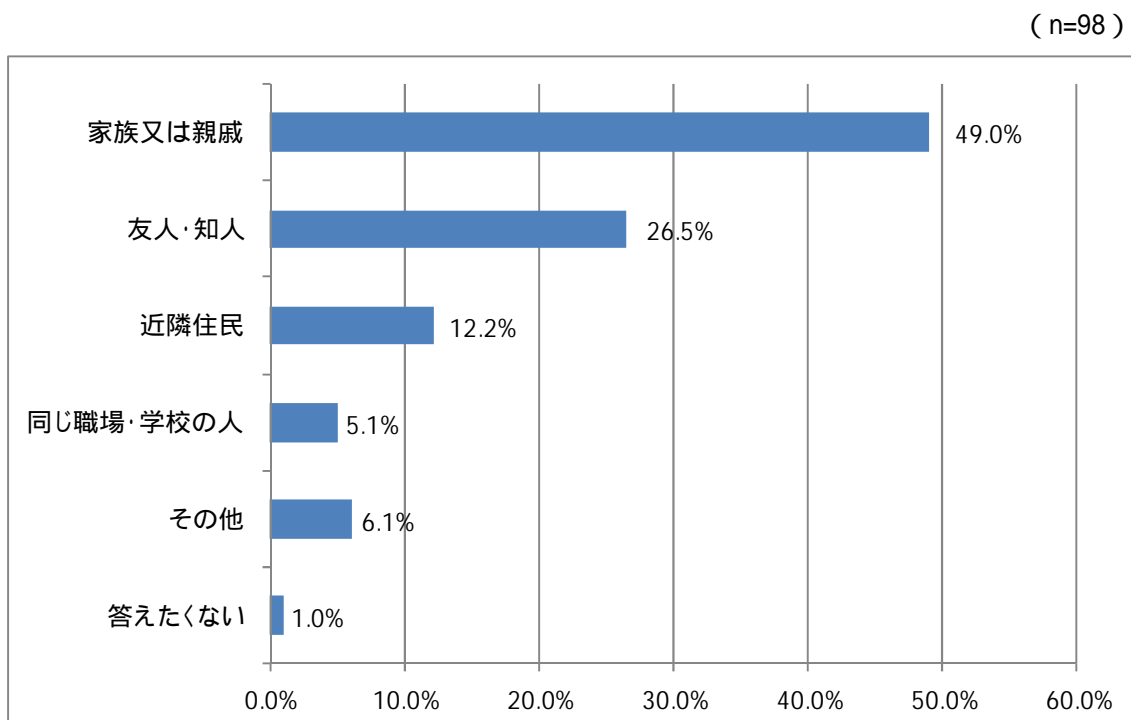


「いる」21.5%、「いない」48.1%、「分からない」30.3%となった。

【問8】(問7で「いる」と回答した方にお伺いします)

(「ケアラー」・「ヤングケアラー」との関係)

あなたは、「ケアラー」又は「ヤングケアラー」とどのような関係ですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。



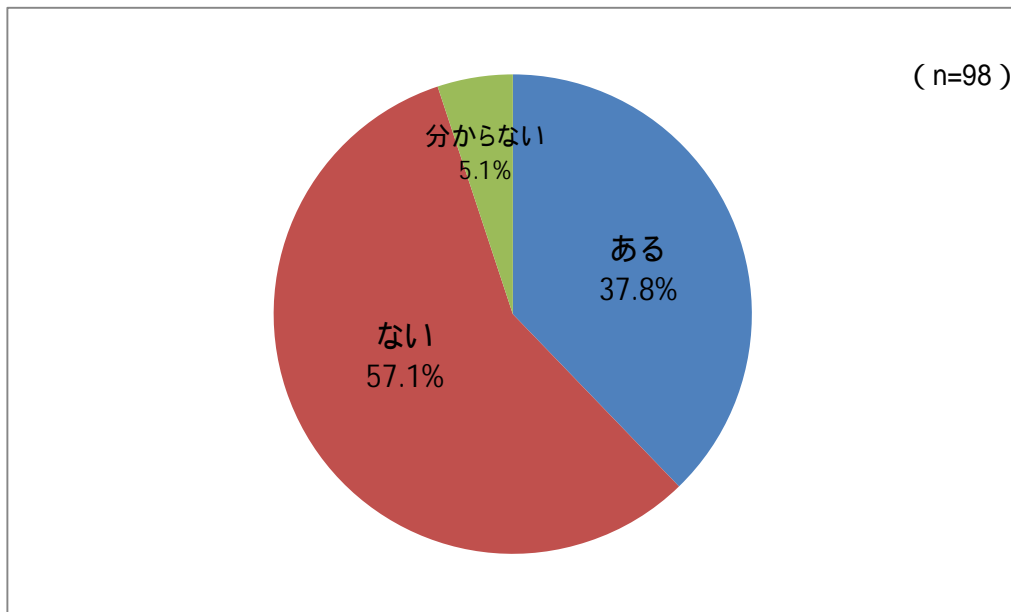
「その他」(6.1%)として、次の様な意見が挙げられた。

- ・自分自身
- ・過去自分
- ・周りにはいないが、自分が該当者であった など

【問9】(問7で「いる」と回答した方にお伺いします)

(「ケアラー」・「ヤングケアラー」からの相談)

あなたは、「ケアラー」又は「ヤングケアラー」から相談を受けたことがありますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

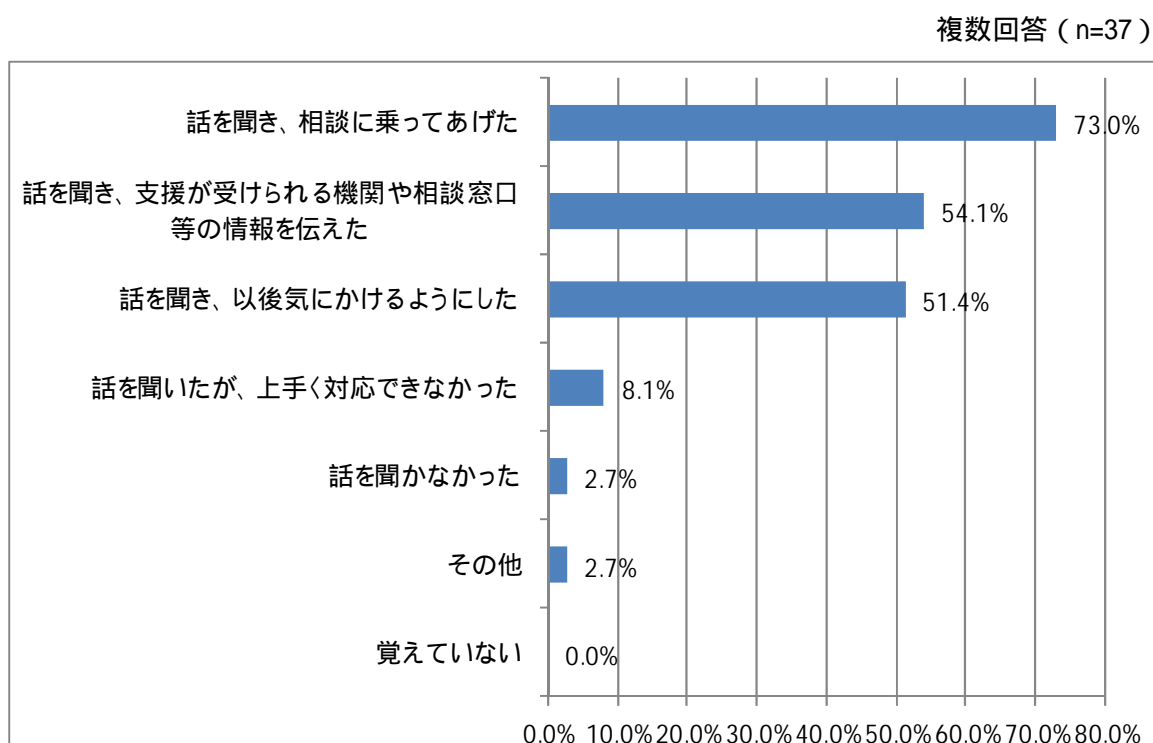


「ある」37.8%、「ない」57.1%、「分からない」5.1%となった。

【問10】(問9で「ある」と回答した方にお伺いします)

(相談への対応)

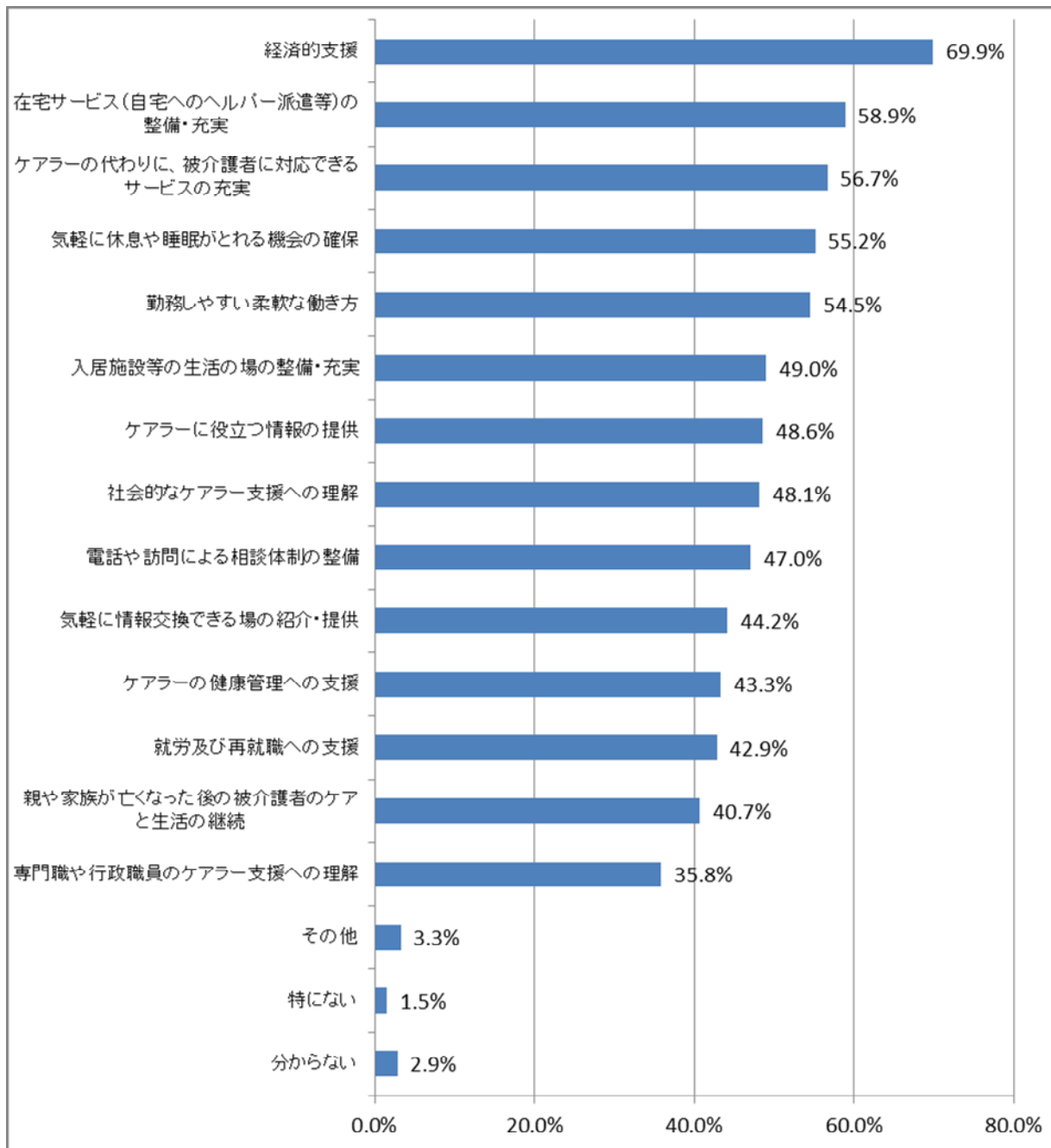
あなたは、その方に対し、どのような対応をしましたか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。



【問11】(「ケアラー」に対する必要な支援策)

あなたは、「ケアラー」に必要な支援策はどのようなものだと思いますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

複数回答 (n=455)



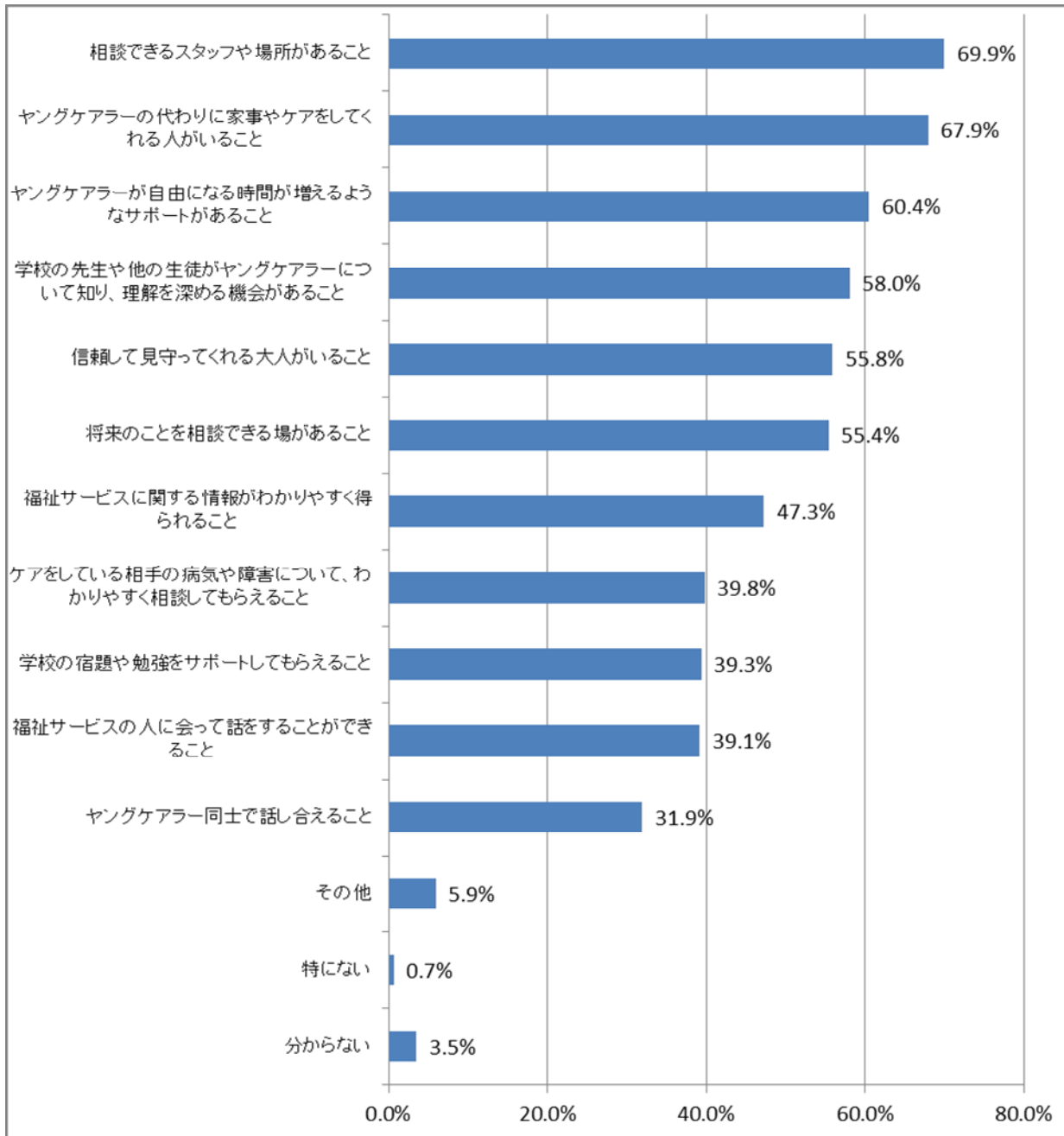
「その他」(3.3%)として、次の様な意見が挙げられた。

- ・そもそものケアラー自体の認知度をあげる
- ・県民に対するケアラーの存在・助成制度のPR
- ・ケアラーに対する心のケア
- ・そもそも社会福祉として社会がきちんと介護すべき など

【問12】(「ヤングケアラー」に対する必要な支援策)

あなたは、「ヤングケアラー」に必要な支援策はどのようなものだと思いますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

複数回答 (n=455)



「その他」(5.9%)として、次の様な意見が挙げられた。

- ・金銭的支援
- ・経済的な心配を軽減させる公的支援があること
- ・ヤングケアラーの社会的認知の向上(自身がヤングケアラーだと気付かせる等)
- ・普通に学校や会社に行けるシステムを作ることが必要
- ・ヤングケアラーに対する心のケア
- ・時間的に親交が希薄となる同級生などとの交わり
- ・ヤングケアラーにならずに済む環境を行政が作ってあげること
- ・そもそも社会福祉として社会がきちんと介護すべき
- ・信頼できる大人をつくり、関わること など

【問13】(自分ができそうな支援)

あなたの身近に「ケアラー」又は「ヤングケアラー」がいたとして、どんな支援ができそうか、具体的にお書きください(200字以内)。

- ・悩みを聞いたり専門家の相談窓口を調べて教えてあげること。
- ・必要な情報の提供と行政への連絡及び相談。
- ・ヤングケアラーの学習支援をする。
- ・本人の不安な気持ちに対する相談や家事手伝い程度の支援。
- ・買い物の代行、病院や所用の際の送迎。
- ・話を聞くこと、ケアと一緒にすること、ストレス解消に付き合うこと。
- ・社会的認知度、理解を広げる。

など、合計233件のご意見がありました。

【問14】(支援施策で期待すること)

今後の、ケアラー・ヤングケアラー支援施策に対して期待することやご意見・ご要望等がありましたら、自由にお書きください(200字以内)。

- ・ケアラー、ヤングケアラーという概念を本人や家族、周囲の人達を知ることが第一歩だと思います。介護などの支援をする人達にも知ってもらい、ケアラー、ヤングケアラーを介護の主な担い手と認識しないことが必要と感じます。
- ・様々な情報や相談窓口などがわかりやすく認知できるような発信を希望します。
- ・ケアラーやヤングケアラーへの社会的理解や支援がないと、生活が困難な状況になる方々が多いと思う。支援制度に関する広報や相談窓口への呼びかけが必要と考える。
- ・潜在的なケアラーが多数いると思うので、自分がケアラーだとわかる施策の浸透が必要だと思います。
- ・ヤングケアラーに関しては、学生であったりする場合、やはり負担が大きいと思います。行政のサポート、貧困な環境の方には支援金も必要なのではと思います。そして、そういう事を気軽に相談できる場所があるというのを分かるようにしてあげることも必要なのではと思います。
- ・私は知識が全くないことに気づかされました。自分がいつそのような立場になるかわからないので、これからはこの件に関する情報に意識したいと思います。県民に広く理解してもらうような情報発信やセミナーのような啓発活動をお願いしたいです。また、学校の授業で取り上げるのも有効かと思います。
- ・ボランティア的な状態でなく、公的に、または社会的に支援する仕組みが必要と思う。例えば自治体に窓口を設ける、NPOで支援するなど。
- ・様々な理由でやむを得ず家で面倒を見るなど、必要な助けを得られず介護する人を支援する制度が必要と感じます。行政は支援が必要な人たちの情報を掴んで、適切なアドバイスが出来る専門家の育成などが重要であると考えます。
- ・学校がヤングケアラーの可能性のある生徒を気にかけて、行政と連携して対応する。

など、合計211件のご意見がありました。

- 3 アンケート結果を受け、今後の事業展開・アンケートの活用方法等について「ケアラー」及び「ヤングケアラー」の支援施策を検討する際の参考資料とする。

4 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：令和3年7月12日(月)から令和3年7月25日(日)

調査方法：インターネット(アンケート専用フォームへの入力)による回答

モニター数：904名

回収率：63.3%(572名)

回答者の属性：以下の通り。ただし、百分率表示は、小数点以下第二位を四捨五入しているため、個々の比率の合計は100%にならない場合がある。

		人数(人)	比率(%)
全体(n)		572	100.0
地域別	県北	44	7.7
	県央	172	30.1
	鹿行	28	4.9
	県南	166	29.0
	県西	45	7.9
	県外	117	20.5
性別	男性	259	45.3
	女性	313	54.7
性・年齢別	16~19歳	4	0.7
	20~29歳	34	5.9
	30~39歳	97	17.0
	40~49歳	150	26.2
	50~59歳	147	25.7
	60~69歳	79	13.8
	70歳以上	61	10.7
職業別	自営業	57	10.0
	会社員	190	33.2
	団体職員	24	4.2
	公務員	26	4.5
	主婦・主夫	123	21.5
	学生	13	2.3
	無職	67	11.7
	その他	72	12.6

(2) 担当課

茨城県保健福祉部福祉指導課(地域福祉グループ)

電話：029-301-3157 E-mail：fukushi1@pref.ibaraki.lg.jp